

秋田市の これからの 考える会



〈特別ゲスト〉
片岡 愛之助さん
歌舞伎俳優、榎茂都流家元



とき **2/20木 18:00~** 入場無料 全席自由 事前申込【定員750名】

ところ **あきた芸術劇場ミルハス 中ホール**

〈第1部〉秋田市のこれからのについて — 沼谷 純

〈第2部〉伝統文化と秋田の可能性について — 片岡 愛之助×沼谷 純

右記QRコードから
お申し込みください。



※定員を超えるお申し込みをいただいた場合、受付を終了することがあります。※本資料に掲載されている写真は、著作権および肖像権で保護されています。これらを無断で転載、複製、加工、または配布することはできません。

集会の ご案内

「沼谷純 市民対話集会」を開催いたします！
皆さまの「声」をお聞かせいただき、一緒により良い秋田市を創っていきたくて考えております。
いずれの会場も入場無料・申し込み不要です。ご参加を心よりお待ちしております。

2/8土 11:00~
なんびあ 南部市民
サービスセンター
秋田市御野場1-5-1

2/9日 11:00~
キタスカ 北部市民
サービスセンター
秋田市土崎港西5-3-1

2/11火祝 11:00~
いーぱる 東部市民
サービスセンター
秋田市広面字釣瓶町13-3

2/15土 11:00~
東コミセン
秋田市広面字鬼頭38

2/16日 11:00~
桜コミセン
秋田市桜台1-1-4

2/22土 11:00~
ウェスター 西部市民
サービスセンター
秋田市新屋扇町13-34

2/23日 11:00~
センタース 中央市民
サービスセンター
秋田市山王1-1-1(秋田市役所内)

2/24月祝 11:00~
外旭川コミセン
秋田市旭川字四百刈76

3/1土 11:00~
飯島南コミセン
秋田市飯島字南場掛318-2

3/2日 11:00~
仁井田コミセン
秋田市仁井田本町4-5-20

3/8土 11:00~
榎山コミセン
秋田市榎山南中町1-9

3/9日 11:00~
河辺総合福祉交流センター
秋田市河辺北野田高屋上前田表66-1

〈発行・お問い合わせ〉 **沼谷純後援会**
〒010-0044 秋田市横森4丁目6-43

TEL.018-883-3383 FAX.018-883-3384
E-mail. jnworks0330@yahoo.co.jp

沼谷純の公式Webサイト
公式SNSはこちらから



沼谷 純 ぬまや じゅん



YouTube
記者会見の詳細は
こちらをご覧ください。



▲2025年1月9日出馬表明記者会見にて

秋田市長選挙立候補への思い ———— 停滞する市政の前進と、30万都市の復活を。

私たちが暮らす秋田市は、東北では4番目に人口が多く、産業や文化、まちづくりなどにおいて、多くの可能性と魅力を持っています。しかし、現在の市政は、外旭川地区の開発やスタジアム整備などで二転三転するなど、停滞が続いており、残念ながら人口減少や若者流出にも歯止めがかかっていません。私は4年前に秋田市長選に挑戦し、力及ばず、敗れました。再挑戦については前回以上の覚悟と努力が必要であり、何度も自分自身にそのことを問い続けてきました。その上で、やはり停滞する今の市政を、市民の皆さまと共に前進させていきたいという強い思いから、決断をいたしました。

人口30万人を割り込んでしまった県都秋田市をもう一度「30万都市」に戻す、そのために私の全てを賭けて、政策を実行してまいります。市民の皆さまにも、これまでの市政に対して、届かなかった思いや声が沢山あるのではないのでしょうか。私は、市政をもっとオープンにし、市民の皆さまとの対話の中で、予算の使い方や物事を決めていきます。また、リーダーとしても、自由に議論をし、アイデアを出し合える風通しの良い市役所にしていきたいと考えています。停滞から前進へ。皆さまと共に。

沼谷 純

30万都市の復活へ

沼谷 純の 主な政策

[沼谷 純プロフィール]

昭和48年 秋田市仁井田生まれ。秋田市立仁井田小学校、御野場中学校、県立秋田南高校卒業。秋田大学教育学部を卒業後、秋田県庁に入庁。秋田の現状を打破するため、一念発起し、政治の道へ。県議会議員を経て、この春、秋田市長選挙に再挑戦。秋田市横森在住。



1. 全ての子どもに居場所とチャンス

少子化だからこそ、この街に生まれ育つ全ての子どもたちを大事にしたい。子ども子育て支援に予算を大きく配分し、給食費・医療費・保育料の完全無償化を実現します。また、老朽化した県立児童会館については、今後八橋運動公園内に整備されるインクルーシブ広場などと一緒に、子どもの「遊び・学び・育ち」を総合的に支援する場として、県市連携での建て替えを目指します。

- 民間フリースクールや子ども食堂への支援、多様な経験を育む教育バウチャーの発行
- 夜間・休日保育の充実、保育人材の確保支援と待遇改善
- 障がいを持つ子どもたちの多様な学びと育ちを支える教育・保育体制を整備
- 学校給食をはじめとした食の安全安心と地産地消の拡大
- 産前・産後ケアの充実、育児を見守る「安心おむつ定期便」の実施



2. 日本一の若者支援を

秋田市は約7,000人の大学生が暮らす「学生の街」です。若者がこの街で暮らしたい、挑戦してみたい、仕事がしたい、と思えるような街にするため、これまで行政が手薄であった「若者支援」に取り組んでいきます。また、働き方や暮らし方の多様化が進むなかで、全国の若者を惹きつけるリモートワーク環境の整備やお試し移住、教育留学などを促進します。

- 高校生・大学生の地元就職促進のための応援金を創設
- 若者の多様な挑戦を後押しする日本一のスタートアップ支援
- 大学生が主役となった「まちづくり」の実行、大学生が企画する企業インターンシップの実施
- デジタル人材育成のための新たな拠点整備と、県外からのデジタル人材誘致



3. 企業と人を呼び込む「稼げる街」に

秋田市の人口減少を打開するためには、この街に企業や投資、そして人を呼び込まなければいけません。この16年間で55件(年間3~4件)に留まっている企業誘致については、官民連携の新たな制度を創設し、年間20件程度の企業誘致を達成します。このほか、他県に比べ低調となっている観光誘客やインバウンドについては、「観光都市構想」を早急に定め、観光客倍増を目指します。

- 地元の仕事は地元の企業に。秋田市の公共発注・調達を地元企業を最優先
- 秋田市への移住・定住を促進するための新たな住宅政策の実施
- 儲かる一次産業・食品加工への支援、担い手の育成・確保支援
- 外国人材を含めた多様な人材確保のための企業支援制度の創設
- 秋田市による新電力会社設立と電力の地産地消・家計負担の軽減



4. 防災対策の抜本的な見直し・強化を

秋田市で発生した一昨年の豪雨災害では、避難指示の遅れ、そして避難所の開設や備蓄物資の提供などにおいて課題が見られました。また、その後の復旧支援においても、被災した市民の皆さまに十分に寄り添えなかった点もあったものと考えています。国・県の支援対象とならない被災者に関する秋田市独自の支援制度を創設するなど、誰ひとり取り残さない防災対策を進めます。

- 遅れやミスのない避難指示などの初動体制の確立
- 避難所への冷暖房設置、トイレ・キッチン・バスの迅速な提供、ペットと一緒に過ごせる避難場所整備、備蓄に関する場所・量・内容の見直し
- 河川改修の促進、市街地の排水強化や、公共施設・公園などへの雨水貯留機能整備
- 市民防災会議(仮称)の設置と「市民の声」を反映した防災対策



5. 全世代の暮らしの「安全・安心」を

ここで生きていきたい、暮らし続けたいと思われる街をつくるためには、公共交通や福祉・医療などの体制がしっかり整っていることが重要です。また、近年市街地に出没するクマについても市民の暮らしや安全、経済活動にも大きな影響があることから、秋田市として公務員ハンターを採用し、迅速かつ徹底した駆除を行います。

- 交通弱者ゼロを目指したバス、タクシー、ライドシェアなどの最適化
- 介護人材確保と秋田市独自の処遇改善、ICTを活用した独居世帯の見守り支援
- 医師・看護師などの人材確保・育成への支援
- 健康長寿を促進する「健康マイレージ」導入、新たなグラウンドゴルフ場の整備
- 音楽、演劇、アート、アニメ、舞踊・舞踏など多様な芸術文化の振興



6. 迷走するまちづくりに決着を

この4年の間に、スタジアム、卸売市場、商業集客施設の3つを一体的に整備することを前提とした外旭川の開発計画は、秋田市自らがスタジアムの整備場所を八橋に変更するなど、事実上とん挫しました。また、スタジアムについては場所が二転三転するだけでなく、整備主体や整備費用も全く定まらないままの状況となっています。

こうした状況を考えれば、私は、現行の外旭川地区の開発計画は、いったん白紙とし、改めて県・市・民間事業者の3者が協議のテーブルにつき「内需や消費の取り合いにならない、県外・海外から人と消費を呼び込めるオンリーワンの場所」にできるかどうか、という視点からゼロベースで再検討を行うべきと考えています。

また、卸売市場の整備については、現在の物価、燃料、人件費などの高騰のなかで、秋田市の財政状況や市場内事業者の負担能力を踏まえ、長寿命化や大規模修繕など、現実的な対応をとっていくべきだと考えています。

さらに、県都の顔となる秋田駅前についても未だ再開発が手つかずとなっているエリアもあり、全国各地で行われている最新の手法を取り入れながら、秋田市として責任と覚悟を持って進めていきます。